



## 藤原京成る

大宝元年(701)正月、文武天皇は藤原宮の大(だい)極(ごく)殿(でん)に出御し、群民の賀正の礼を受けた。『続(しょく)日 (に)本(ほん)紀(ぎ)』はその様を「その儀、正門に烏形の憧(しょう)を樹(た)つ。左に日像・青竜・朱(す)雀(ざく)の幡(ばん)、右に月像・玄(げん)武(ぶ)・白虎の幡。蕃(ばん)異(い)の使者左右に陳列す。文物の儀ここにおいて備(そなわ)れり」と特筆している。

天武天皇によって計画され、その死後夫の遺志を継いだ持(じ)統(とう)天皇によって完成した藤原京は、持統8年(694) 12月の遷都以来、和銅3年(710)3月の平城京遷都まで、持統・文武・元(げん)明(めい)3代の宮都となった。

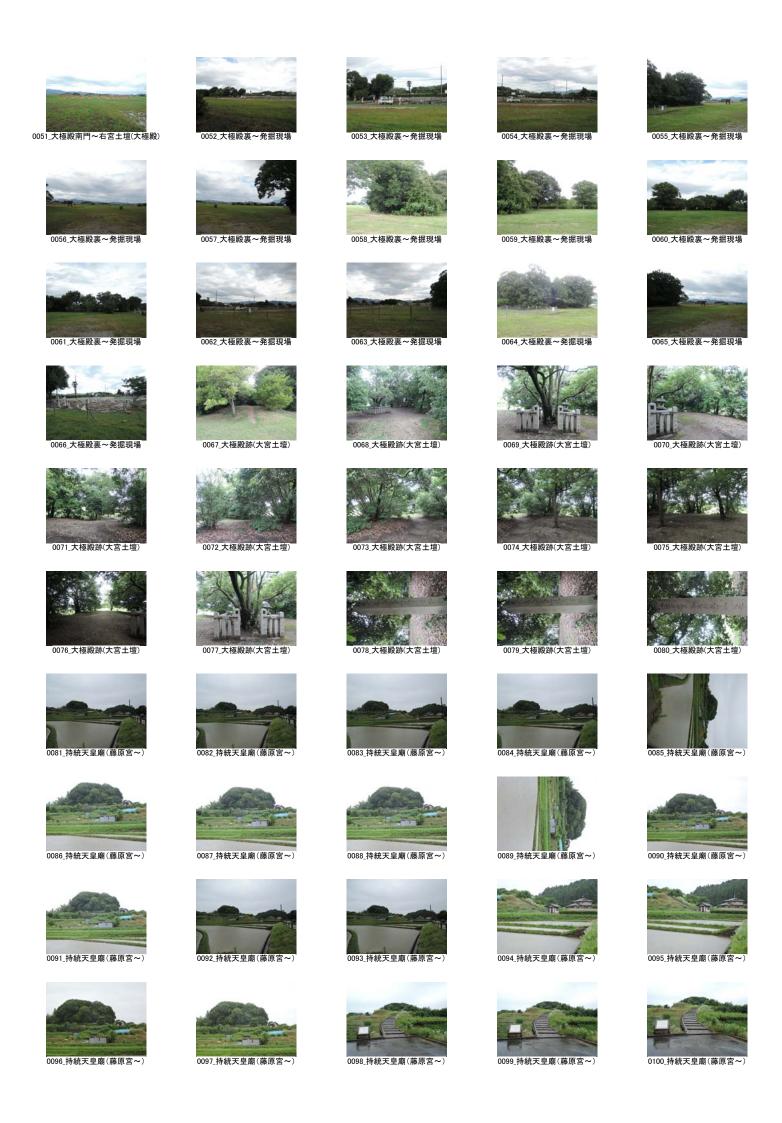
それまで歴代遷宮を繰り返していた宮都が、わずか 15 年ほどの短い期間とはいえ、3 代にわたって藤原京に定着したことは、その条坊制による京の施行と、瓦葺き宮殿の採用とともに画期的なことであった。

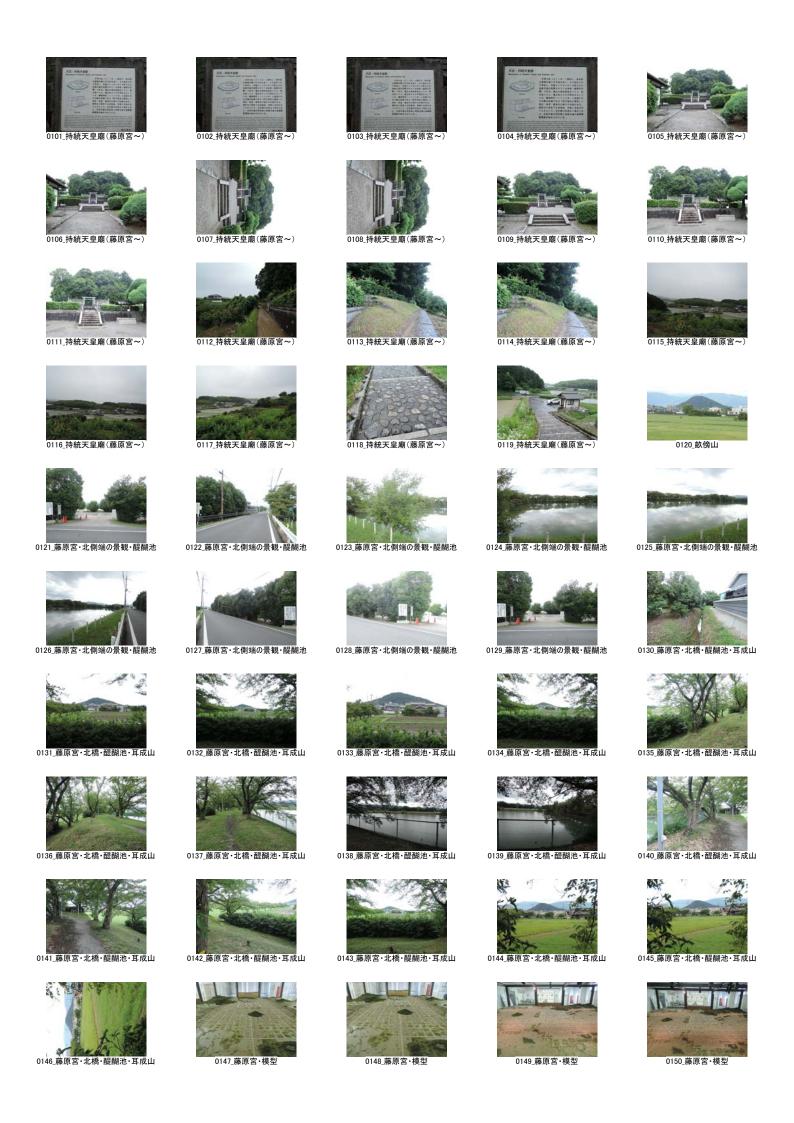
そして、それはそれまでの「倭京」を「新に益す(拡張する)」形で営まれたものとして、「新(あら)益(ましの)京(みやこ)」と呼ばれたのである。

藤原京は岸(きし)俊(とし)男(お)によると、大和平野を南北に走る2つの古道、中ツ道と下(しも)ツ道をそれぞれ東・西京極とし、横大路を北京極、阿部・山田道を南京極とする東西4里(約2,120メートル)、南北6里(約3,186メートル)の地域を、東西方向の条大路と南北方向の坊大路によって12条8坊に区画された条坊制都城であった。

参考文献 町田章編『古代史復元8 古代の宮殿と寺院』(株)講談社発行 1989 年

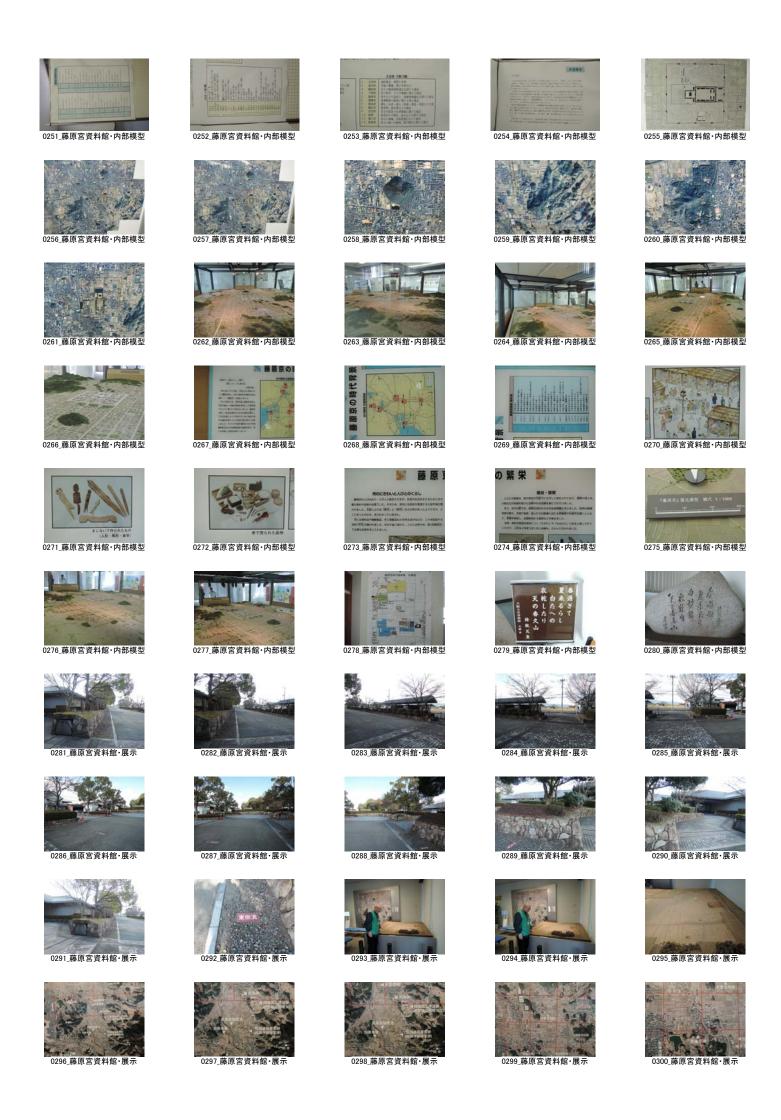




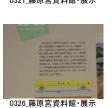






















0302\_藤原宮資料館・展示





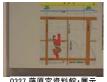
0312\_藤原宮資料館・展示



0317\_藤原宮資料館・展示



0322\_藤原宮資料館・展示



0327\_藤原宮資料館·展示





0337 藤原宮資料館・展示



0342\_藤原宮資料館・展示





0303 藤原宮資料館・展示



0308\_藤原宮資料館・展示



0313\_藤原宮資料館・展示



0318\_藤原宮資料館·展示



0323\_藤原宮資料館・展示



0328\_藤原宮資料館・展示





0338 藤原宮資料館・展示



0343\_藤原宮資料館・展示





0304 藤原宮資料館・展示



0309\_藤原宮資料館・展示



0314\_藤原宮資料館・展示



0319\_藤原宮資料館・展示



0324\_藤原宮資料館・展示



0329\_藤原宮資料館·展示





0339\_藤原宮資料館・展示



0344\_藤原宮資料館・展示









0315\_藤原宮資料館・展示



0320\_藤原宮資料館・展示



0325\_藤原宮資料館・展示



0330\_藤原宮資料館・展示





0340 藤原宮資料館・展示





0350 藤原宮資料館・展示





0401\_香久山周辺、山頂



0402\_香久山周辺、山頂



0403\_香久山周辺、山頂



0404\_香久山周辺、山頂







0407\_香久山周辺、山頂



0408\_香久山周辺、山頂



0409\_香久山周辺、山頂



0410\_香久山周辺、山頂





0412\_香久山周辺、山頂



0413\_香久山周辺、山頂



0414\_香久山周辺、山頂





0416\_香久山周辺、山頂